

粕谷和夫の観察日記。5月4日、町田・芹が谷公園付近の民家の外壁に架けた巣箱にヤマガラが営巣。当民家の内側から窓ガラス越しに撮った写真です。巣箱の中のヒナに親鳥が頻繁に餌を運んでいました。6日には巣箱から雛が無事に巣立ったとの連絡がありました。

紅葉台



新聞

第242号

2026年
7月11日

発行人：関谷 孝

玉川上水を歩く 鷹の橋から小金井橋へ

5月5日五月晴。爽やかな散歩日和だった。いつも道案内をしてくれる植木さんは、ここがホームグラウンド。この場所で「バタフライガーデン」を地域の人たちと作り、保護活動に取り組んでいる。



西武国分寺線の鷹の台駅からスタート。駅前には老舗のケーキ屋さんが人目を引く。入り口に玉川上水散歩の地図が貼ってあった。鷹の橋先の踏切を渡り玉川上水をまたぐ。小さな橋から水面を眺める。先日の雨で水量を増した澄み切った水が勢いよく流れている。**玉川上水と並行して新堀用水も流れている。**その2つの川の真ん中に続く新緑の道は言葉

では言い表せないほどの美しさだった。森林浴は心を癒し免疫を高めるといってもまさにそのもの。「小平グリーンロード」&「オープンガーデンマップ」の地図を手に歩く。（市の施設などに置いてある）

ここで、玉川上水について。江戸時代、人口が増えたため多摩川の水を江戸に引くことを計画した。1653年多摩川の羽村から庄右衛門、清右衛門の2人の兄弟が8か月で完成させ以後、玉川上水と呼ばれる。**上水は、取水口である多摩川の羽村から四谷大木戸までの約43km。**玉川上水緑道は、杉並区の浅間橋から福生市の平和橋までの約24km。武蔵野の雑木林や四季折々の自然を楽しみながら散策できるよう整備されている。



津田塾大学がある木漏れ日の道は、イチヨウやケヤキ、コナラなどの樹木が訪問者を迎えてくれる。ここは**キンラン、ギンランが自生している**。地域の人達が大事に保護をしている。またエゴノキが白い花を咲かせていた。エゴの実が好きなヤマガラがたくさん来るのではと想像する。マルバウツギ、マヤラン、ツリバナなどの木々もたくさんあるので植物観察にはもってこいである。その木々の間をアゲハ蝶が飛んでいる。巨木があちらこちらにあり歴史を感じる。どの木も番号が付けられていた。

久右衛門橋を交差する府中街道を少し南に行くと、「小平市ふれあい下水道館」がある。ちょっとした地底探検が味わえる。

小平市ふれあい下水道館は、平成2年度に下水道の普及率が100%を達成したことを記念してつくられ、誰でも自由に本物の下水道管の中に入ることができる日本で唯一の施設。下水道の役割や仕組み、歴史



などを分かりやすく映像システムやパネルで展示しているほか、地下1階の大型モニターでは下水をきれいにする微生物の観察もできる。地下5階の「ふれあい体験室」では、地下25メートルの実際に使われている下水道管の内径4.5mの中に入り、下水の色やにおいなどを体験できるのでおすすめです。2025年1月埼玉県八潮市で発生した老朽化した土砂が流出しトラックが転落した事故が記憶に新しいが、この時の下水道管がことごとほ同じなのでマスコミが取材に来たとのこと。大雨が降るとほぼ下水道管がいっぱいになりマンホールのふたが持ち上がる。古い下水道管は、雨水と下水が一緒になっているからである。最近の下水道管は別々になっているので雨水はそのまま川に流れるようになっている。この日は天気



が良く多くの家で洗濯をするので下水が増えたようだ。緑道に戻り15分も行くと、森が少し開け、木製のデッキと階段が現れる。玉川上水に鉄柵がかけられ落ち葉が溜まっている。**小川水衛所跡**である。かつて水番が常駐し、流れてきたゴミや木などを除去した場所である。北側には一橋大学小平国際キャンパスの校舎が眺められる。

また、近くには、**小平市平櫛田中彫刻美術館**がある。近代日本彫刻の巨匠・平櫛田中の作品を保存・展示し、長くその功績を顕彰するとともに、市民文化の向上を図ることを目的として、1984年(昭和59)に平櫛田中の旧宅を公開し、「小平市平櫛田中館」として開館。その後、平成18年4月に館名を「**小平市平櫛田中彫刻美術館**」へ変更し、現在に至っている。平櫛田中彫刻美術館のシンボルとなっている彫刻用の**クスノキの原木**は、記念館前庭に展示。平櫛田中はこの大きなクスノキの原木を100歳のときに購入し、まだまだ作りたいものがあると話すほど創作意欲に燃えていました！巨大クスノキは一見の価値があります。



しばらく歩くと桜橋西武多摩湖線の踏切を渡る。ここからは車道沿いの歩道となる。五日市街道沿いで交通量が多い。ひたすら歩くとウォーキング姿の人も散見する。15分ほどで喜平橋。ここで五日市街道は左岸側へと進路変更。樹木の根っこが時々浮き出た道をつまづかないように進む。小金井街道を渡る小金井橋には、「**名勝小金井桜**」の標柱が立つ。小金井橋からJR中央線武蔵小金井駅までバスに乗り家に帰ると1.5万歩ほどの行程でした。川沿いの道は、歴史と自然を満喫するととても気持ちのいい散歩コースでした。涼しくなったらお出かけください！

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。